

平成25年度女性審判講習会 講義

講師 岩田千奈美氏（日本協会）
2013. 7. 7 狭山市民総合体育館

○プロフィール

大学在学中から審判活動を始め

1996年初の女性 A 級審判員が8名誕生した中の1人であった。

女性 A 級は現在全国で37名おり全体の約1割となっている。

○女性審判として

・女性審判のメリット・デメリット

メリット→女性審判を増やそうと育成が強化されている(割当がもらえる)

デメリット→女性というだけで厳しい見方をされる

例えば、自分の意見を主張しても女性は感情的になると言われてしまう

以前はデメリットが多かったが、女性ならではのこまやかさ・気配りなどが受け入れられてきている
「審判技術+女性のメリット」で良さをだせるとよい。デメリットを受け入れメリットに変えていく

・そのために・・・

走力・体力の維持→ 走力 = 担当できるゲームレベル

ゲームにマッチした走力、体力に余裕がなければ判定にいきつかない

・見せ方→チームへの信頼感にもつながる

切り返しの速さ・タイミング

PLAY に遅れないために→体の向き・予測・判断

プレゼンテーション:大きい人→素早くみせる工夫、小さい人→大きく見せる工夫

・女性で運営する

WJBL では女性審判の育成が理念としてあげられている

女性3人で、または主審を女性審判で運営できるようにしていきたい

・上級になるために

上級、日本公認関係なく自覚・誇りをもって、審判として“こうしたい”という意思をもってコートに立つことが大切であり、要求されていることは同じである

審判・仕事・家庭をやりくりして、計画をもって活動する必要がある

・審判の役目とは

ゲームが無事に終わること、ゲームを進めること

大会を運営する側の一人としての役割を理解する

ルールをすべて知っているのが日本公認である

ゲームに応じて適用し、選手が力を出しやすい環境をつくること

